

塗料製造業は意外に健闘している！？

12月18日

経済産業省が様々な統計を出していますが、その中に工業統計表というのがあり、各産業ごとの実に細かいデータが載っているのを見つけました。見つけたと言ってもずっと以前から公表されている資料で私が知らなかつただけなのですが、いろいろと興味がわいて調べております。

今日は、その中から化学工業について少しご紹介したいと思います。化学工業は1600番という大分類となっています。その中には中分類が7つあり、1610 化学肥料、1620 無機化学工業製品、1630 有機化学工業製品、1640 油脂石鹼合成洗剤回目活性剤塗料、1650 医薬品、1660 化粧品歯磨き、1690 その他となっています。

さらにこれら中分類の中にはそれぞれ小分類があり、塗料は1644という分類番号が振り当てられています。今日の話は、これらあまたある化学工業の中で、塗料は意外にも健闘しているということをご紹介したいと思います。今日ご紹介するデータは2019年工業統計表 産業別統計表、令和2年(2020年)8月7日公表 経済産業省大臣官房調査統計グループ構造統計室のデータです。

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/result-2/r01/kakuho/sangyo/index.html>

ここで集計されている塗料の出荷金額は1兆円を超えており、日塗工の統計よりもかなり大きな数値になっていますが、これは主に同業者向け出荷が含まれているためです。日塗工の統計でも全体の1/4程度同業者向け出荷があるようですので、それを差し引けばまずまず日塗工調査と同じような数値になります。実際には同業者向け出荷を差し引いたとしてもまだ数値は大きいのですが、その理由は経産省調査が4人以上のすべての事業所を対象にしており、母集団も日塗工調査よりも大きいとしておきます。

塗料は小分類の中では7番目の出荷金額の大きな業種になります。以下の表をご覧ください。上から大分類、中分類、小分類の数値です。

ここにあげた10の小分類は1兆円以上または塗料に類似した業種としました。小分類についてみると、化学の業種の中では、医薬品が圧倒的に大きい出荷金額を誇ります。次いでプラスチック、石油化学系基礎商品(石油精製品)、脂肪族系中間物、環式中間物・・・と基礎化学品および中間原料が続き、最終製品に2番手として化粧品があり、次に塗料が最終製品の3番手になります。これってなかなかすごくないでしょうか？化学工業の最終製品の3番手業種ですから。

2019年工業統計表 産業別統計表における2018年度の業種別生産状況

産業分類	事業所数	従業者数 (人)	現金給与 総額 (百万円)	原材料 使用額等 (百万円)	製造品 出荷額等 (百万円)	付加価値額 (百万円)
1600 化学工業	4,613	374,699	2,059,924	16,897,428	29,787,987	11,503,083
1620 無機化学工業製品	775	36,378	206,092	1,435,722	2,318,988	772,816
1630 有機化学工業製品	758	97,685	643,932	7,666,325	10,921,733	2,897,223
1640 油脂加工製品・石けん・合成洗剤・界面活性剤・塗料製造業	862	40,847	216,952	1,492,282	2,786,908	1,164,703
1650 医薬品	757	98,633	512,886	3,538,483	8,476,293	4,382,132
1660 化粧品・歯磨・その他の化粧品調整品	492	45,807	173,321	892,312	2,145,441	1,152,247
1631 石油化学系基礎製品	9	4,717	36,967	1,707,892	1,973,416	210,240
1632 脂肪族系中間物製造業	64	12,564	89,012	1,336,383	1,820,493	432,714
1634 環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	132	15,373	93,249	1,040,745	1,620,071	532,578
1635 プラスチック製造業	244	33,220	223,165	2,337,098	3,488,221	1,036,373
1642 石けん・合成洗剤製造業	173	9,653	47,896	348,741	855,945	453,235
1643 界面活性剤製造業	73	4,542	25,150	221,033	363,373	127,302
1644 塗料製造業	375	17,330	95,774	608,605	1,100,371	447,705
1645 印刷インキ製造業	94	5,342	30,292	216,503	299,009	71,620
1652 医薬品製剤製造業	508	77,914	404,590	3,146,233	7,476,627	3,852,329
1661 仕上用・皮膚用化粧品製造業	295	31,742	124,349	663,231	1,563,810	833,813

令和2年(2020年) 8月7日公表 経済産業省大臣官房調査統計グループ構造統計室

次に今の表を一人あたりに換算してみます。

2019年工業統計表 産業別統計表における2018年度の生産状況解析表

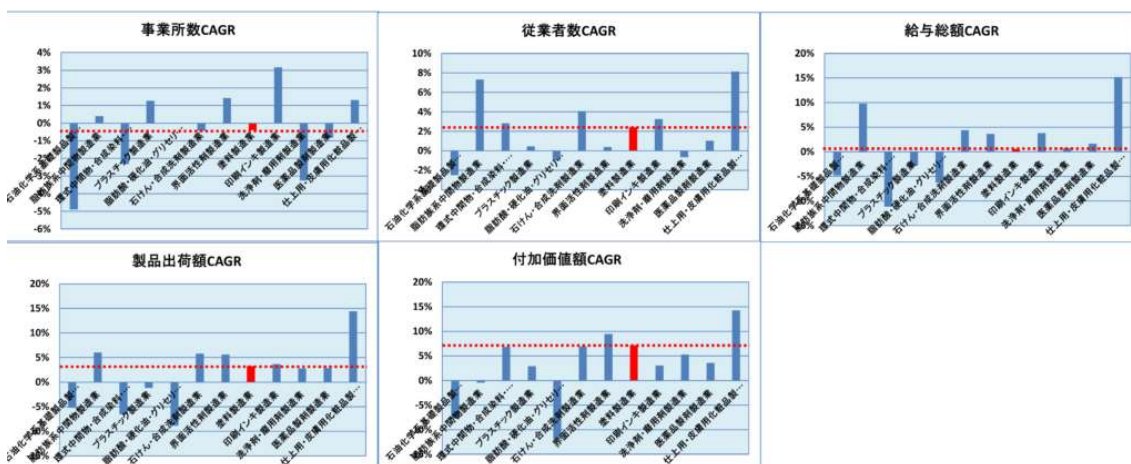
産業分類	平均従業者数 (人/所)	平均給与 (百万円/人)	ひとりあたり 出荷金額 (百万円/人)	ひとりあたり 付加価値 (百万円/人)	給与/出荷金額 %	原材料/出荷金額 %
1600 化学工業	81.2	5.50	79.5	30.7	6.92%	56.73%
1620 無機化学工業製品	46.9	5.67	63.7	21.2	8.89%	61.91%
1630 有機化学工業製品	128.9	6.59	111.8	29.7	5.90%	70.19%
1640 油脂加工製品・石けん・合成洗剤・界面活性剤・塗料製造業	47.4	5.31	68.2	28.5	7.78%	53.55%
1650 医薬品	130.3	5.20	85.9	44.4	6.05%	41.75%
1660 化粧品・歯磨・その他の化粧品調整品	93.1	3.78	46.8	25.2	8.08%	41.59%
1631 石油化学系基礎製品	524.1	7.84	418.4	44.6	1.87%	86.54%
1632 脂肪族系中間物製造業	196.3	7.08	144.9	34.4	4.89%	73.41%
1634 環式中間物・合成染料・有機顔料製造業	116.5	6.07	105.4	34.6	5.76%	64.24%
1635 プラスチック製造業	136.1	6.72	105.0	31.2	6.40%	67.00%
1642 石けん・合成洗剤製造業	55.8	4.96	88.7	47.0	5.60%	40.74%
1643 界面活性剤製造業	62.2	5.54	80.0	28.0	6.92%	60.83%
1644 塗料製造業	46.2	5.53	63.5	25.8	8.70%	55.31%
1645 印刷インキ製造業	56.8	5.67	56.0	13.4	10.13%	72.41%
1652 医薬品製剤製造業	153.4	5.19	96.0	49.4	5.41%	42.08%
1661 仕上用・皮膚用化粧品製造業	107.6	3.92	49.3	26.3	7.95%	42.41%

塗料業種の順位 (12業種中)	10	7	9	9	2	7
-----------------	----	---	---	---	---	---

一人あたりに換算すると給与や出荷金額は石油系化学基礎製品の独壇場です。なにせ全国に9カ所しか事業所がなく、ひとつひとつが巨大な石油精製プラントですから、ひとりあたりの生産数量は抜きんできています。一方、一人当たりの付加価値では医薬品がトップです。このあたりは塗料はかないません。意外なのが一番下の化粧品で、一人あたりの給与、出荷金額ともこの10業種では最下位でした。

この工業統計表は、2014年から2018年までのデータが収録されていたので、この間

の年間成長率（CAGR）を計算してみました。それを下に示します。



表題に意外に頑張っている塗料製造業！？と書きました。その理由は化学工業分野の最終製品で3番手ということではなく、この4年間の成長率でみると、従業員数、製品出荷額、付加価値金額の成長率では結構頑張っているのではないかと思います。

工業統計表は膨大なデータが収録されています。すべての製造業が網羅されていますので、今回行ったような解析をほかの業種についても実施して今後ご紹介したいと思います。塗料のユーザーは多種多様であり、そうしたユーザーの業界動向を把握することも塗料製造業にとって重要ではないかと考えています。